

H3 ロケット 8号機の打上げ失敗の原因究明結果について

令和8年4月23日

文部科学省

H3 ロケット 8号機対策本部

昨年12月22日のH3 ロケット 8号機の打上げ結果を受け、文部科学大臣の指示に基づき、同日、対策本部が設置され、以降、原因究明及び必要な対策検討を進めてきました。

JAXA の行う原因調査等を専門的見地から独立した目で調査審議してきた文部科学省の宇宙開発利用部会 調査・安全小委員会において、原因究明に係る中間報告書がとりまとめられ、昨日の宇宙開発利用部会（第105回）において了承されました。

中間報告書においては、

- ・ 打上げ失敗の発生事象としては、衛星フェアリング分離開始直後に、衛星搭載構造の一部が損傷・破壊したことが起点となり、ロケットの第1段・第2段機体が分離した時点で衛星が離脱したと推定されること
 - ・ 直接要因としては、衛星搭載アダプタ（PSS）に生じた剥離が衛星フェアリング分離時の衝撃で進展し、最終的に不安定破壊に至ったことが主要因であった可能性が極めて高いこと
 - ・ 打上げ再開に向けた対策案として、当面の実用衛星等の搭載機ではファスナ結合方式、30形態試験機では補修方式を適用することは妥当と判断したこと
 - ・ 水平展開として、PSS と同様の接着構造がある衛星フェアリングの再評価を進めるとともに、背後要因分析の詳細な実施が必要であること
- 等が示されました。

文部科学省としては、本中間報告を真摯に受け止めるとともに、JAXA が実効性ある取組を進め、再発防止に向けた背後要因分析及び是正対策がしっかり実施されるよう、引き続きフォローアップしてまいります。

また、今後、H3 ロケットの打上げ再開に向けては、更なる検証試験や対策の徹底、種子島への輸送等を含めた準備に万全を期すことが重要であり、必要な支援を実施してまいります。

原因究明に当たり、部会及び小委員会の委員の皆様と、数多くの H3 ロケット関係者の御協力、御尽力に対し、感謝の意を表しますとともに、H3 ロケットの信頼回復に向けて、更に取組を進めていただきますよう、お願い申し上げます。